

備中ささげハウス栽培適性試験（3年目）

1. 目的・背景

平成 24 年度から帯広市川西地域において「備中ささげ」の露地栽培適性試験を実施したが、収量性の年次変動が大きかったため、平成 29 年度からハウス栽培での試験検討を行っている。

2. 実施場所

帯広市川西町 帯広市農業技術センターほ場

3. 栽培方法

(1) 品 種：「在来種」

(2) 面積および区制 ハウス栽培区 28m²：畦幅70cm×2畦×20m

(3) 耕種等概要

土壌区分	土 性	前 作	栽植密度	栽培方法	播種月日
沖積土	壤 土	野菜類	70cm×50cm	ハウス・手竹	5/15

※1 株 3 粒播き 2 本立

土改資材 (kg/10a)	施肥量(kg/10a)						防除回数	
	施肥時期	肥料名	窒素	リン酸	加里	苦土	病害	虫害
炭カル 80kg	基肥 5/15	豆用2号50kg	2.2	10.5	5.0	2.2	2	2

※播種後～生育初期に灌水を実施

4. 試験成績

(1) 生育状況

出芽は良好で6月16日に間引きを行い、全株2本立とした。6月中旬～7月中旬まで日照不足が続き、生育はやや緩慢となり、開花期は8月4日で前年より2日程度遅かったが、大きな生育遅れはなかった。8月に入り生育の回復が見られ、分枝や着莢数は前年より多く、登熟は順調に進み、熟莢率の割合は高かった。根切りは前年並の10月4日に実施した。

生育及び作業ステージ

区 分	出芽期	支柱立て 間引き	つる上げ	開花期	根切り	収 穫 (手もぎ)	脱 穀
ハウス区	5/23	6/16	7/19	8/4	10/4	9/25～ 10/9	11/1

(2) 収量調査

9月25日から熟莢の手もぎ収穫を始め、10月9日に最終の収穫を行った。
自然乾燥の後、11月1日に脱穀調整を行った。

前年に比べ着莢数が多く、百粒重も大きかったことから、10a 当たり製品収量は341.6kgで前年を大きく上回った。(前年比147%)。

病害虫の発生が少なく、熟莢率が高く、登熟が良好であったことから品質は良かった。

○調査結果

区分	収穫株数 (株)	子実総重量 (kg)	製品重量 (kg)	屑重量 (kg)	1株 総莢数	うち 熟莢数
ハウス区	80	10.22	9.76	0.46	99.6	94.5

○10a 当たり換算収量

区分	総収量 (kg)	製品収量 (kg)	規格外 (kg)	百粒重 (g)	製品率 (%)	外観 品質
ハウス区	357.7	341.6	16.1	16.2	95.5	良

5. 考察

ハウス栽培で、播種後から適度な灌水を実施したことにより、出芽及び初期生育が非常に良好であり、その後の長引く日照不足等の影響もほとんどなかった。開花期以降は生育の回復が見られ、着莢数も多く、登熟も順調に進んだ。製品収量は前年よりかなり高く、品質も良好であったことから、ハウス栽培の有効性が認められた。

ハウス栽培は、つるの誘引と収穫作業に多くの労力を要するが、高収量・高品質の安定生産が確保されることから有望な栽培方法だと考えられる。



6.14 出芽後の生育



7.25 つる誘引後の生育



8.5 開花始め頃の生育



9.3 着莢の状態



10.2 成熟期

参考：7年間の収量実績

年・作型	総収量 (kg/10a)	製品収量 (kg/10a)	屑収量 (kg/10a)	百粒重 (g)	製品率 (%)
R1 ハウス	357	341	16	16.2	95.5
H30 ハウス	212	200	11	15.1	94.4
H29 ハウス	329	315	13	18.4	95.8
H29 露地	65	32	32	16.3	49.5
H28 露地	83	55	26	15.8	67.1
H27 露地	96	90	5	17.5	94.4
H26 露地	131	79	51	16.2	60.8
H25 露地	65	32	33	16.9	49.2

※ 露地5か年(H25～29)平均製品収量 58.1kg